

株式会社 三越

証券コード：2779

三越グループから株主のみなさまへ

株主通信 第3期決算号

平成17年3月1日～平成18年2月28日

MITSUBUKOSHI

三越経営理念

百貨店の原点に立ち帰り、「新・三越モデル」を構築し
「三越ブランド」の価値をさらに向上させてまいります。

三越は日本初の百貨店としてスタートして、101年目の新世紀を迎えました。

いつも新鮮な気持ちで上質な「おもてなし」と「こころよさ」を。

三越の原点は「まごころ」です。

平成19年度からの次期経営計画に向け原点に立ち帰り、

お客様の要望に即応する新たな価値を創造できる

企業グループを目指しております。



三越経営理念

社会的貢献と
企業の繁栄

伝統を越える
革新性

まごころと
創意工夫

CONTENTS

| | |
|-------------------------|----|
| 三越経営理念 | 1 |
| 株主のみなさまへ | 2 |
| Close Up | 3 |
| MITSUKOSHI NEWS | 5 |
| MITSUKOSHI CSRの原点 | 6 |
| 連結決算ハイライト | 7 |
| 事業別セグメントの概況 | 8 |
| 連結決算の状況 | 9 |
| 単体決算の状況 | 11 |
| 会社の概況／株式の状況 | 12 |
| INFORMATION 〈株主優待制度〉 | 13 |

株主のみなさまへ



代表取締役社長

● 石塚 邦雄 ●

Kunio Ishizuka



「天女像(まごころ)」

佐藤玄々氏によって製作されたこの像は、1960年4月19日、株式会社三越創立50周年記念事業のひとつとして、日本橋本店1階中央ホールに据えられました。経営理念の「まごころと創意工夫」のまごころを象徴しています。

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てを賜り、誠に有り難く厚く御礼申し上げます。

さて、当社(グループ)第3期(平成17年3月1日から平成18年2月28日まで)の事業概況をご報告申し上げます。

当社グループは、これまでもお客様第一の姿勢と3つの経営理念に基づき企業経営を行ってまいりましたが、今一度商売の原点に回帰し、お客様のご期待にそえる商品・サービスを適切に提供できる体制の充実を図りながら「新・三越モデル」の構築を進めてまいりました。

また、同時に事業の抜本的改革と不採算店舗の閉鎖、後方支援業務の効率化などの構造改革に具体的に取り組んでまいりました。

今後ともこれらの取り組みをすすめてまいります。業界内の競争に加え、業態間の競争と業態を越えた企業再編など、当社を取り巻く環境はますます厳しくなると予想されます。

このような状況に対応するため当社グループの中核を担う百貨店事業における「新・三越モデル」の実現にむけ全社を挙げて取り組み、基幹店舗の基盤整備や人材などに戦略的に投資を行い、より魅力ある店舗を構築し、競合を勝抜いていくことを目指してまいります。

また、多様化する顧客ニーズに対応すべく新規ビジネスの開発を引き続き行うほか、新規業態開発を加えた店舗網の再編により各地域における優位性の向上も図ってまいります。

これらの取り組みから当社グループに関わるすべてのステークホルダーに対しさまざまな価値を創出できる企業グループを目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、格別のご理解を賜り、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

Point
1

百貨店事業の収益力強化

売場運営力向上と店舗戦略確立をベースに、戦略的投資を推進し、三越の「ブランド価値」を高めます。

当社グループの中核である百貨店事業では、重点売場の取り組みを中心に、「MD品揃え」「接客サービス」「空間ビジュアル」という顧客に提供する3つの価値を磨き上げてきました。

今後、商品グループごとに「売場運営モデル」を作成し、売場運営の主体性を取り戻し、標準化によるレベルアップ、効率化を実現することで、3つの価値を磨き上げる取り組みのスピードアップを図ります。さらに、「売場運営モデル」の中で、人事政策、コード体系、システムなどの課題を明らかにし、店舗営業を支えるインフラ整備を強力に推進します。

一方、各店舗が、どのような顧客をターゲットに、どんなこだわりのある「MD品揃え」「接客サービス」「空間ビジュアル」を提供するのかといった内容で、「店舗戦略」をより精緻に組

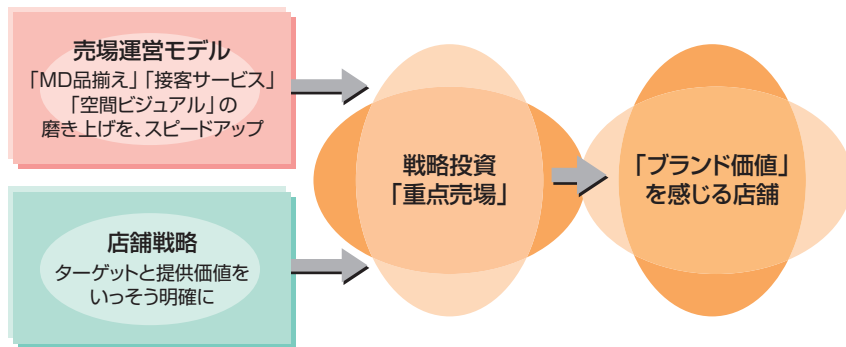
み立ててまいります。

今年度は、売場運営力が向上し、「店舗戦略」が明確になった店舗から、順次戦略的な投資を実施し、フロアのメインスペースに、お客様に「三越らしさ」と「魅力」を感じていただける売場（「重点売場」）をつくっていきます。

お客様の高い評価を得ている銀座店2階「ニューヨーク・ランウェイ・ネクスト」や7階「リミックス・スタイル」を各店舗に展開するとともに、この秋本店と仙台店でスタート予定の「ミグジュアリー・プラス」など、新しい「重点売場」メニューの開発も進めます。

「重点売場」を軸に、お客様に三越らしさと三越ならではの魅力を感じていただける店舗づくりを進めてまいります。

新・三越モデル



▲銀座店「ニューヨーク・ランウェイ・ネクスト」

Point
2

新規ビジネス

今後も成長が見込まれる「コト・シニアビジネス」を念頭に、長年協力関係にあった松竹株式会社と、伝統・文化・エンターテインメント性といった点で相互に協力し、ライフスタイルや環境の変化のなかで互いに販売チャネルの拡大と多様化する顧客ニーズに対して競争力を創出していけるとの判断から業務提携を行うことで合意しました。今後につきましても歌舞伎の舞台裏見学や俳優あいさつなどの特典がつく「四国こんぴら歌舞伎大芝居」などの付加価値の高い三越独自の旅行企画を拡充するほか、松竹株式会社の持つコンテンツを活かした商品開発なども進めてまいります。またほかにも新たな業務提携をすすめ、より多くのお客様からの期待にお応えできる体制を整えてまいります。



▲三越・松竹業務提携記念ビジュアル

Point
3

成長戦略

本年11月の「ダイヤモンドシティ立川・武蔵村山ショッピングセンター」を皮切りに郊外型ショッピングモールへの出店をすすめてまいります。これにより三越ブランドの維持とローコストによる売場運営の両立を前提としたビジネスモデルの構築を目指します。

また、通信販売事業についても情報雑誌「ぴあ」とのコラボレーションにより新しい通販カタログ「定番物語」を発売し、新規拡大を図ってまいります。

一方、これまでも後方業務のアウトソース化や入札制の推進により販売費及び一般管理費の削減に努めてまいりましたが、これらに加え物流体制の抜本的改革を実施し、さらなる収益力の向上を目指してまいります。



▲三越通販カタログ
「定番物語」



▲ダイヤモンドシティ立川・武蔵村山ショッピングセンター
外観イメージ

日本郵政公社との提携

2005年4月1日から、全国の郵便局で「三越VISA郵貯共用カード」の募集が始まりました。このカードは、郵便貯金のキャッシュカードとして全国の提携CD・ATMでご利用できるほか、VISAカードとして三越で利用した場合、三井住友カードのワールドプレゼントポイントが通常の2倍付与される特典をお付けしております。

また、同じく4月からご結婚、ご出産、快気祝いなどのお祝いメッセージとギフトカタログを同時に贈る「三越メッセージギフト」の販売を開始しました。これら郵政公社のネットワークを利用することにより、顧客ならびにギフト需要の拡大が可能となりました。



▲三越VISA郵貯共用カード

「ロハスウィーク」開催

現在、「情報とモノにあふれた生活」から解放され、ゆっくりと自分自身の価値観を模索し、健康と環境に配慮する「ロハス」的な生活提案が注目されています。三越では2005年10月28日から11月3日まで、恵比寿店で「ロハスウィーク」を開催いたしました。「ロハス的な商品」の紹介のほか、講習会やお客さま参加型のイベントを実施するなど三越の考える「ロハスな暮らし」を提案しました。



※LOHAS(ロハス)…Lifestyles Of Health And Sustainabilityの頭文字をとった造語＝健康と環境に配慮した、人類と地球が共存共栄できる持続可能なライフスタイル。

ICタグ実証実験

経済産業省の「日本版フューチャーストア・プロジェクト」の一環として2006年1月31日から2月13日まで、百貨店・GMS・コンビニエンスストア・専門店・食品スーパーの5業態でICタグ実証実験が行われました。百貨店は三越が担当し、銀座店2階「ニューヨーク・ランウェイ」で、未来店舗を目指して、プレミアムジーンズ5,000着にICタグを取り付け、在庫管理や顧客管理など4つの新しいシステム(お客様視点のスマートシェルフ、eリコメンデーション、インテリジェントフィッティングルーム、次世代型CRMシステム)を通じて、お客様サービスと業務改善の効果などを検証しました。現在、在庫管理システムから実導入を検討しており、実用化すればすでに4店舗で稼働している婦人靴に続き、ICタグシステムとしては2アイテム目となります。



三越ライフタイム国立(2号店)オープン

通所介護施設を運営する三越ライフタイム上馬の高い評価と実績に基づき、三越ライフタイム国立が2005年4月に東京都国立市にオープンいたしました。将来的に事業規模の拡大が期待されるシニアマーケットにおいて、2事業体制で、事業運営の基礎を固めるとともに、引き続き高品質なサービスを提供し、顧客満足度をさらに追求・拡大してまいります。



▲三越ライフタイム国立

MITSUKOSHI CSR(企業の社会的責任)の原点

三越のCSR

三越は、以前よりCSRを意識した企業活動を行ってまいりましたが、本年2月1日をもって社内に正式にCSR推進部門を構築し、これまで以上に社会的責任を意識した、透明かつ誠実な経営を目指してまいります。

CSRの原点

三越は、1905年年頭、日本で初めての「デパートメントストア宣言」を行いました。その当時の専務である日比翁助は、デパートメントストアを「社会公衆の商店なり」と位置付け、その経営方針は、「公衆の利益」を優先し、これに「品物のよいこと」「正直なる広告」「顧客の満足」をモットーとしてサービスすることといたしました。言い換えれば「社会の役に立つ」ことを優先した企業活動宣言でもあります。「単に営利だけの観念で経営せず国家社会に貢献しなくてははいけない。」という理想をもち、これを具現化しました。三越の300年を超える長い歴史は、今で言うCSRの理念を一人ひとりの社員が絶えることなく携えて、それを実行してきた結果です。



▲日比翁助

コンプライアンス(法令順守)

すべての企業活動を通じ、コンプライアンスを徹底することが最も重要な問題です。社内ではさまざまな機会を通してコンプライアンスの強化を図っておりますが、CSR組織の構築を良い機会と捉え、真にお客様および社会のためになることを、ルールに則り適正公正に実践してまいります。

「新・三越モデル」の推進

3ページでご紹介いたしました「新・三越モデル」の「MD品揃え」「接客サービス」「空間ビジュアル」の磨き上げは、先に述べた原点を踏まえ、お客様に対する三越としての本業を通じたCSR活動にほかなりません。三越で働くすべての従業員が、この活動を理解し、行動し、これまで以上にお客様にご満足いただけるように努めてまいります。

環境活動、文化芸術活動

環境の維持・改善についてはISO活動を推進し、地球温暖化防止、CO₂排出規制やゴミの分別等、企業としてできることを行い、人と地球が調和する持続可能な社会の実現を目指しています。また、文化・芸術分野においては、日本におけるメセナ活動の先駆けとして2005年11月に企業メセナ協議会から、2005年の「メセナ大賞」を受賞いたしました。今後も、文化・芸術の紹介は三越の揺るぎない企業文化として変わることなく、進めてまいります。



▲「メセナアワード2005」贈呈式

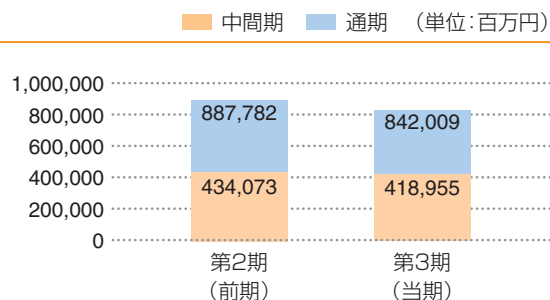
連結決算の概況をお知らせいたします。

連結決算ハイライト

Financial Highlights

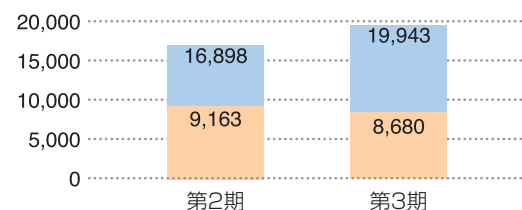
連結売上高

店舗閉鎖の影響やセール中止の影響で前年比較では45,772百万円減(5.2%減)となりましたが、下半期は景気回復の影響や「新・三越モデル」ビジョン推進の効果がでてきたこともあり、衣料品、特選雑貨、美術等の売上が好調で、売上計画を上回りました。



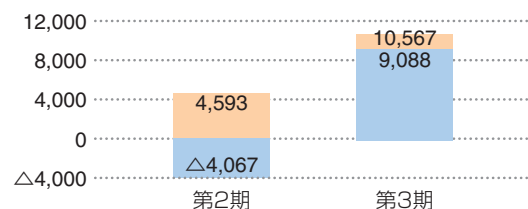
連結経常利益

店舗閉鎖とそれに伴う早期退職措置の影響や購買管理の取り組み強化により、販管費を大きく削減できたことと、台湾・新光三越百貨店の業績が新店舗オープンなどにより好調に推移したことなどにより、前年比較では3,044百万円増(18.0%増)、計画に対しても4,343百万円上回ることができました。



連結当期純利益

平成15年9月の新設合併の際、計上した土地等の含み損に対する繰延税金資産約97億円を取り崩したことで、また早期退職措置の実施に伴い、前期末に計上した繰延税金資産を取り崩したことなどにより、法人税等調整額を169億円計上した結果、前年比較で13,156百万円増、計画に対して5,111百万円減(36.0%減)の9,088百万円となりました。



| 連 結 | 単 位 | H17年2月期(第2期) | | H18年2月期(第3期) | |
|---------------------|-------|--------------|---------|--------------|---------|
| | | 中間期 | 通 期 | 中間期 | 通 期 |
| 売 上 高 | (百万円) | 434,073 | 887,782 | 418,955 | 842,009 |
| 営 業 利 益 | (百万円) | 7,403 | 15,214 | 7,194 | 15,272 |
| 経 常 利 益 | (百万円) | 9,163 | 16,898 | 8,680 | 19,943 |
| 当期(中間)純利益(△損失) | (百万円) | 4,593 | △4,067 | 10,567 | 9,088 |
| 株 主 資 本 | (百万円) | 137,186 | 129,025 | 139,537 | 140,018 |
| 株 主 資 本 比 率 | (%) | 22.1 | 20.3 | 22.7 | 23.4 |
| ROE(株主資本当期(中間)純利益率) | (%) | 3.4 | △3.1 | 7.9 | 6.8 |
| 総 資 産 | (百万円) | 621,783 | 636,879 | 614,133 | 597,349 |

連結決算の状況

連結貸借対照表(要旨)

| 科 目 | (単位：百万円) | |
|-----------------|---------------------------|---------------------------|
| | 当期(第3期) (平成18年2月28日現在) | 前期(第2期) (平成17年2月28日現在) |
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | 111,321 | 146,729 |
| 固定資産 | 486,027 | 490,150 |
| 有形固定資産 | 376,495 | 386,559 |
| 無形固定資産 | 9,459 | 9,036 |
| 投資その他の資産 | 100,073 | 94,554 |
| 資産合計 | 597,349 | 636,879 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | 238,787 | 223,908 |
| 固定負債 | 218,158 | 283,575 |
| 負債合計 | 456,945 | 507,483 |
| 少数株主持分 | | |
| 少数株主持分 | 384 | 371 |
| 資本の部 | | |
| 資本金 | 37,404 | 37,404 |
| 資本剰余金 | 41,899 | 41,879 |
| 利益剰余金 | 57,799 | 50,190 |
| その他有価証券評価差額金 | 2,039 | 746 |
| 為替換算調整勘定 | 1,276 | △920 |
| 自己株式 | △400 | △273 |
| 資本合計 | 140,018 | 129,025 |
| 負債、少数株主持分及び資本合計 | 597,349 | 636,879 |

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結剰余金計算書(要旨)

| 科 目 | (単位：百万円) | |
|----------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| | 当 期 (平成17年3月1日～ 平成18年2月28日) | 前 期 (平成16年3月1日～ 平成17年2月28日) |
| 資本剰余金の部 | | |
| 資本剰余金期首残高 | 41,879 | 41,832 |
| 資本剰余金増加高 | 20 | 46 |
| 資本剰余金期末残高 | 41,899 | 41,879 |
| 利益剰余金の部 | | |
| 利益剰余金期首残高 | 50,190 | 56,282 |
| 利益剰余金増加高 | 9,088 | — |
| 利益剰余金減少高 | 1,479 | 6,092 |
| 利益剰余金期末残高 | 57,799 | 50,190 |

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

Point① 連結貸借対照表

- 総資産は5,973億4千9百万円と前期末に比べ395億3千万円減少しました。これは、店舗閉鎖とそれに伴う早期退職措置の影響による現預金、棚卸資産、繰延税金資産、差入保証金等の減少によるものです。
- 負債合計は4,569億4千5百万円と前期末に比べ505億3千7百万円減少しました。これは、店舗閉鎖とそれに伴う早期退職措置の影響による、未払金、買掛金、商品券の減少と有利子負債の圧縮によるものです。
- 資本合計は1,400億1千8百万円と前期末に比べ109億9千3百万円増加しました。

Point② 連結損益計算書

- 販売費及び一般管理費は店舗閉鎖と購買管理の取り組み強化、物流の構造改革などに伴い、人件費・物流費・宣伝費・借地借家料・水道光熱費などほぼ全費目で削減が図られています。
- 特別利益としては大阪店跡地等の固定資産売却益等を、特別損失としては吉祥寺店等の閉鎖に伴う店舗閉鎖損失や店舗改装等に伴う固定資産除却損等を計上しています。

連結損益計算書(要旨)

(単位: 百万円)

| 科 目 | 当 期 | 前 期 |
|------------------|----------------------------|----------------------------|
| | (平成17年3月1日～ 平成18年2月28日) | (平成16年3月1日～ 平成17年2月28日) |
| 売上高 | 842,009 | 887,782 |
| 売上原価 | 611,800 | 644,554 |
| 売上総利益 | 230,208 | 243,228 |
| 販売費及び一般管理費 | 214,936 | 228,013 |
| 営業利益 | 15,272 | 15,214 |
| 営業外収益 | 12,290 | 11,083 |
| 営業外費用 | 7,619 | 9,398 |
| 経常利益 | 19,943 | 16,898 |
| 特別利益 | 13,303 | 1,726 |
| 特別損失 | 5,818 | 33,644 |
| 税金等調整前当期純利益(△損失) | 27,428 | △15,018 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 1,097 | 1,041 |
| 過年度法人税等 | 320 | — |
| 過年度法人税等戻入額 | — | 68 |
| 法人税等調整額 | 16,904 | △11,988 |
| 少数株主利益 | 17 | 64 |
| 当期純利益(△損失) | 9,088 | △4,067 |

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位: 百万円)

| 科 目 | 当 期 | 前 期 |
|------------------|----------------------------|----------------------------|
| | (平成17年3月1日～ 平成18年2月28日) | (平成16年3月1日～ 平成17年2月28日) |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 13,286 | 28,717 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 1,750 | △25,303 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △20,596 | 5,612 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 277 | △37 |
| 現金及び現金同等物の増減額 | △5,281 | 8,989 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 28,247 | 19,257 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 22,965 | 28,247 |

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

Point③ 連結キャッシュ・フロー計算書

- 営業活動によるキャッシュ・フロー
132億8千6百万円の収入(前期は287億1千7百万円の収入)となりました。これは主に税金等調整前当期純利益274億2千8百万円、減価償却費143億1千8百万円、売上債権の減少148億7千8百万円及び棚卸資産の減少45億1千万円等による収入がありましたが、早期退職特別優遇措置に伴い197億6千万円、店舗閉鎖に伴い60億7百万円の支払いを行ったこと等によるものです。
- 投資活動によるキャッシュ・フロー
17億5千万円の収入(前期は253億3百万円の支出)となりました。これは主に百貨店業での新店舗工事、増改築工事、店内改装、施設改善等、有形・無形固定資産の取得による支出122億1千4百万円等がありましたが、有形・無形固定資産の売却による収入87億9百万円等によるものです。
- 財務活動によるキャッシュ・フロー
205億9千6百万円の支出(前期は56億1千2百万円の収入)となりました。これは主に借入金の返済や配当金の支払いを行ったこと等によるものです。

貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

| 科 目 | 当期(第3期) (平成18年2月28日現在) | 前期(第2期) (平成17年2月28日現在) |
|----------------|---------------------------|---------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | 106,164 | 125,583 |
| 固定資産 | 423,374 | 432,999 |
| 有形固定資産 | 308,792 | 315,952 |
| 無形固定資産 | 26,967 | 26,771 |
| 投資その他の資産 | 87,615 | 90,275 |
| 資産合計 | 529,539 | 558,582 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | 225,727 | 199,662 |
| 固定負債 | 196,922 | 252,034 |
| 負債合計 | 422,650 | 451,696 |
| 資本の部 | | |
| 資本金 | 37,404 | 37,404 |
| 資本剰余金 | 41,525 | 41,504 |
| 利益剰余金 | 26,454 | 27,524 |
| その他有価証券評価差額金 | 1,877 | 698 |
| 自己株式 | △373 | △246 |
| 資本合計 | 106,889 | 106,885 |
| 負債・資本合計 | 529,539 | 558,582 |

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

利益処分

(単位：百万円)

| 科 目 | 当 期 | 前 期 |
|--------------|--------|--------|
| 当期未処分利益 | 15,157 | 16,096 |
| 任意積立金取崩額 | 382 | 130 |
| 特定資産圧縮積立金取崩額 | 382 | 130 |
| 合計 | 15,540 | 16,227 |
| 利益処分額 | 1,478 | 1,479 |
| 配当金 | 1,478 | 1,479 |
| 次期繰越利益 | 14,061 | 14,748 |

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

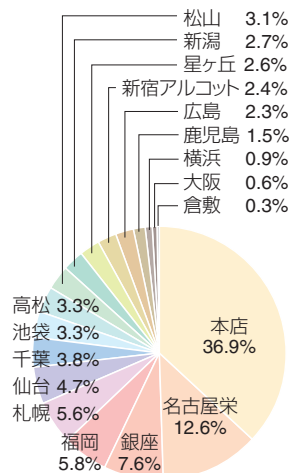
損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

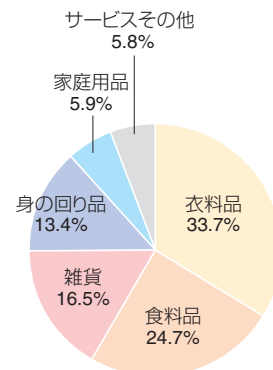
| 科 目 | 当 期 (平成17年3月1日～ 平成18年2月28日) | 前 期 (平成16年3月1日～ 平成17年2月28日) |
|---------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 売上高 | 787,774 | 833,870 |
| 売上原価 | 579,805 | 614,575 |
| 売上総利益 | 207,968 | 219,295 |
| 販売費及び一般管理費 | 193,664 | 204,467 |
| 営業利益 | 14,303 | 14,828 |
| 営業外収益 | 5,153 | 5,216 |
| 営業外費用 | 8,637 | 10,419 |
| 経常利益 | 10,820 | 9,624 |
| 特別利益 | 12,536 | 492 |
| 特別損失 | 5,972 | 32,413 |
| 税引前当期純利益(△損失) | 17,383 | △22,296 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 122 | 133 |
| 過年度法人税等戻入額 | — | 68 |
| 法人税等調整額 | 16,852 | △13,662 |
| 当期純利益(△損失) | 409 | △8,698 |
| 前期繰越利益 | 14,748 | 24,795 |
| 当期末処分利益 | 15,157 | 16,096 |

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

店別売上高構成比



商品部門別売上高構成比



会社の概況 (平成18年2月28日現在)

Corporate Profile

商号 株式会社 三越 会社設立 平成15年9月1日
 事業内容 百貨店業 (旧株式会社三越は明治37年(1904年)12月6日設立)
 本店所在地 東京都中央区日本橋室町一丁目4番1号 資本金 37,404,066,207円
 創業 延宝元年(1673年) 従業員数 6,924名 (男性 3,844名 女性 3,080名)

役員

| | | | |
|-----------|-------|-----------|-------|
| 代表取締役会長 | 中村 胤夫 | 取締役上席執行役員 | 小野 俊一 |
| 代表取締役社長 | 石塚 邦雄 | 取締役上席執行役員 | 天野 公平 |
| 取締役専務執行役員 | 喜連 元昭 | 取締役 | 佐藤 文夫 |
| 取締役常務執行役員 | 宮本 恵司 | | |
| 取締役常務執行役員 | 山本多加志 | 常勤監査役 | 阿部 健一 |
| 取締役常務執行役員 | 谷北 陽一 | 常勤監査役 | 竹並 紘司 |
| 取締役上席執行役員 | 平賀 和彦 | 監査役 | 佐成 豊彦 |
| 取締役上席執行役員 | 重松 健 | 監査役 | 河村 綱也 |

三越店舗のご案内

- 日本橋本店
- 新宿アルコト店
- 銀座店
- 池袋店
- 千葉店
- 新潟店
- 仙台店
- 札幌店
- 名古屋栄店
- ラシック店
- 名古屋屋ヶ丘店
- 広島店
- 高松店
- 松山店
- 福岡店
- 鹿児島店
- ロンドン三越
- パリ三越
- ローマ三越
- デュッセルドルフ三越
- フランクフルト三越
- ミュンヘン三越
- マドリッド三越
- オーランド三越
- ハワイ三越
- 香港三越
- 台北南京西路店
- 台北駅前店
- 台北信義1号店
- 台北信義2号店
- 台北信義3号店
- 台北信義4号店
- 天母店
- 桃園店
- 新竹店
- 台中店
- 台南1号店
- 台南2号店
- 高雄三多店
- 花園飯店(上海)
三越ショップ
(業務受託)

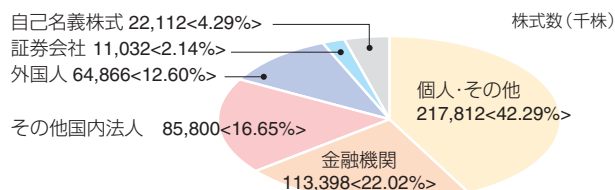
株式の状況 (平成18年2月28日現在)

Stock Information

発行する株式の総数 1,000,000,000株
 発行済株式の総数 515,022,356株
 株主数 80,969名
 大株主

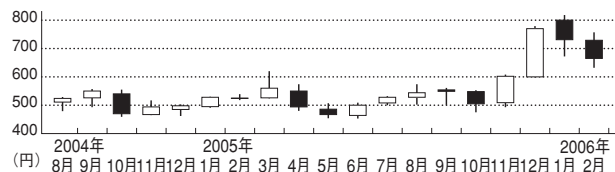
| 株主名 | 持株数 (千株) | 議決権比率 (%) |
|---------------------------|-------------|--------------|
| 財団法人三越厚生事業団 | 40,199 | 8.24 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 23,723 | 4.86 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 18,016 | 3.69 |
| モルガン・スタンレー・アンド・カンパニー インク | 16,050 | 3.29 |
| 株式会社大塚家具 | 15,000 | 3.07 |
| 三井生命保険株式会社 | 11,195 | 2.29 |
| 三越従業員持株会 | 9,393 | 1.92 |
| 三越愛護会 | 8,366 | 1.71 |
| 株式会社三井住友銀行 | 7,000 | 1.43 |
| ザ・チェースマンハッタンバンクエヌ・エイ・ロンドン | 6,982 | 1.43 |

株式分布状況(所有者別株式分布)



※自己名義株式22,112千株は株主名簿上の株式数であり、平成18年2月28日現在の実質保有残高は22,111千株です。

株価の推移(月足)



株主優待制度について

株主お買物優待券

株主お買物優待券

2月末日および8月31日現在1,000株以上ご所有の株主の皆様へ「株主お買物優待券」を発行いたします。

発行基準

| | |
|------------------|-----|
| 1,000株以上3,000株未満 | 15枚 |
| 3,000株以上5,000株未満 | 30枚 |
| 5,000株以上8,000株未満 | 45枚 |
| 8,000株以上 | 60枚 |

有効期限

| 対象 | 郵送時期 | 有効期限 |
|-------------|---------------------|---------|
| 2月末日現在の株主様 | 5月下旬 (定時株主総会終了後) | 12月31日 |
| 8月31日現在の株主様 | 11月上旬 | 翌年6月30日 |

◇本券は紛失されましても再発行いたしかねますので、お取扱いには充分ご注意ください。

◇ご優待につきましては店舗により優待率、割引除外商品・サービス等が異なるものもございますので、あらかじめご了承ください。

お買物のご優待

現金(三越商品券および全国百貨店共通商品券を含む)でのお買物に限り、本体価格(税抜価格)の7%のご優待割引となります。ただし、他の優待割引との併用はできません。

ご利用方法

- 本券はお買物代金お支払いの際にご提出ください。
- 当日中のお買物については、1枚で1日何回でもご利用いただけます。
- 本券は綴りから切り離してご利用いただけます。

ご利用店舗

三越本支店・沖縄三越・全国各地の三越サテライトショップ・海外店(台湾新光三越・オランダ三越是除く)

ご優待割引除外商品

食堂、喫茶、商品券、お仕立券、ギフト券類(ビール券、全国共通図書カード等)、ギフトインデックス類、煙草、官製品、土地および住宅関連工事、荷送料、旅行代金、保険料、呉服誂工料、紳士婦人既製服工料、生鮮品(精肉、鮮魚、野菜等)、ロエベ、ルイ・ヴィトン、ティファニー、カルティエ、エルメス、ブルガリ、その他各店で指定する売場の商品

- 通信販売のお買物も7%のご優待割引となります。ただし、店頭への電話注文による代金引換配送には、ご利用いただけません。

その他のご優待

- 三越各店で開催の文化展、美術展などの有料催事を無料でご鑑賞いただけます。
(ご本人様およびご同伴者1名様)
- 日本橋三越劇場(自主公演)をご優待料金でご観劇いただけます。
- 写真撮影・貸衣裳・理美容・クリーニング・時計修理(電池交換を除く)をご優待割引でご利用いただけます。

NEW!!

ホテル宿泊のご優待

帝国ホテル東京・大阪、オークラホテルズ&リゾーツ(国内)、ホテルニューオータニ東京、ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテルにご優待料金で宿泊いただけます。

ご利用基準

2月末日および8月31日現在1,000株以上ご所有の株主様とさせていただきます。

ご利用方法

宿泊のお申込みは各ホテルのご予約センターにて承ります。お申込みの際、三越の株主番号または株主お買物優待券番号をお申出ください。尚、ホテルにより優待率、優待対象となるお部屋等が異なりますので、詳しくは各ホテルご予約センターにてご確認ください。

ご利用ホテル



帝国ホテル

●帝国ホテル東京：モテレートルーム、インベリアルフロアデラックスルーム ●帝国ホテル大阪：レギュラールーム、スーベリアルーム
ご予約先TEL 東京ご予約先03-3504-1251
大阪ご予約先06-6881-4100



ホテル ニューオータニ

●ホテルニューオータニ東京・タワーデラックスルーム
ご予約先TEL 0120-112211



オークラホテルズ&リゾーツ

●東京をはじめ札幌、新潟、京都、神戸、福岡等国内17ホテルがご利用いただけます
ご予約先TEL 0120-003741



ヨコハマグランド インターコンチネンタルホテル

●全部屋対象 ●その他スパプラン・エステプランのご優待がございます
ご予約先TEL 045-223-2222 (代表)
宿泊予約まで

株式事務手続きのご案内

■株式事務のお問い合わせ先

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部

フリーダイヤル 0120-78-2031

■株式の手続き用紙のご請求

当社の株式事務を取り扱っております中央三井信託銀行では、株主の皆様の**住所変更**、**配当金振込指定書**などの用紙のご請求を電話およびインターネットのホームページで24時間受付しておりますので、どうぞご利用ください。

●インターネットによるご請求

ホームページアドレス

http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06m.html

※証券保管振替制度をご利用の方は、恐れ入りますが、お取引の証券会社へ照会ください。

●電話によるご請求

受付フリーダイヤル 0120-87-2031

(操作の方法は、音声案内に従ってください。)

ご請求できる用紙 住所変更届・名義書換請求書・単元未満株式買取請求書・配当金振込指定書

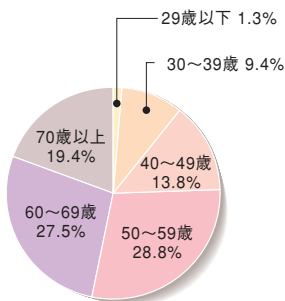
■株主メモ

- 事業年度：毎年3月1日から翌年2月末日まで
- 剰余金配当基準日：
期末配当/2月末日 中間配当/8月31日
- 定時株主総会：毎年5月
- 株主名簿管理人：
東京都港区芝三丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所：
東京都港区芝三丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社 本店
- 同取次所：
中央三井信託銀行株式会社 全国各支店
日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
- 名義書換手数料：無料
- 新券交付手数料：新券1枚につき210円(税込み)
(ただし、併合、満欄による場合は無料)
- 公告方法：電子公告により公告
- 貸借対照表および損益計算書掲載のホームページアドレス
http://www.mitsukoshi.co.jp/corp_info/index.html
- 証券コード：2779
(平成15年9月1日合併により8231から変更)

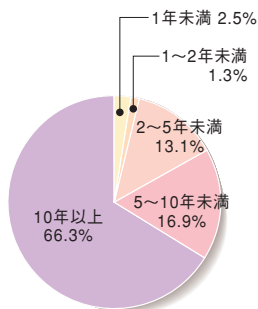
アンケート結果 ご報告

第3期中間事業報告書において、アンケートを実施させていただきましたところ、数多くのご回答が寄せられました。お忙しいなかご協力いただき、誠にありがとうございました。ここにお寄せいただいた集計結果を報告させていただきます。当社では貴重なご意見として今後の活動へ反映させるべく努めてまいりたいと思います。

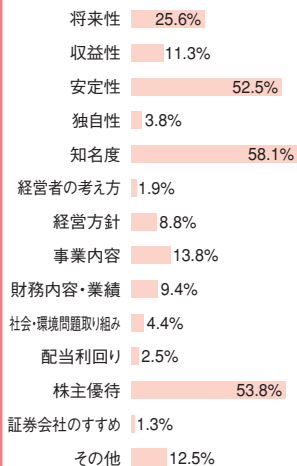
●年齢別構成比



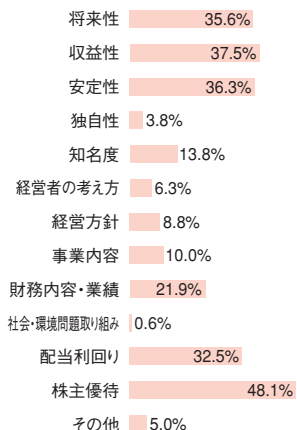
●株式投資を始めてからの期間



●株式購入の理由(複数回答)



●方針を決定する際に重視するもの



三越の歴史

8

1971年 初の海外店、 パリ三越が開店。

初の海外店。パリ三越が6月17日に開店。日本人旅行者にヨーロッパ商品を、在仏日本人に日本の味を提供するとともに、三越の海外基地として、ヨーロッパの情報を日本へ紹介しました。



三越のホームページもあわせてご覧ください。
URL <http://www.mitsukoshi.co.jp>



ショッピングサイトはもちろん、投資家向け情報などさまざまな情報を開示している当社ホームページをぜひご覧ください。

株式会社 三越

〒103-8001 東京都中央区日本橋室町一丁目4番1号

〈お問い合わせ先〉

コーポレート推進室(株主担当) TEL.03-3241-3311(代表)



MITSUKOSHI